

『暖簾を守る』

鯡の湖

理事長 馬場智章

コロナウイルス旋風が吹き荒れる真っ只中で迎えた令和2年度通常総会は、決議を表決委任という異例の形とさせて頂きました。今回の役員改選では皆さまのご推挙を受け、引続き理事長の重責をお受け致しました。なお一層温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

これからの2年間は『暖簾を守る』を念頭に、活動を進める所存です。先人が築かれた長浜観光ボランティアガイド協会という暖簾には、今までに多くのお客様から頂いた『長浜はいい街』との評価が織り込まれております。この暖簾をしつかりと守り次の世代に繋いでゆくことが今の私たちの責務です。

NPO 法人
長浜観光ボランティア
ガイド協会
〒526-0059
長浜市元浜町 14-12
湖北観光情報センター
電話 0749-65-0370
発行責任者・馬場智章

鯡の湖会のおもい

1. 真心を込めたおもてなしの心で、お客さまをあたたくお迎えします。
2. 地域の歴史や文化、豊かな自然を温かい人情とともにお客さまにお伝えします。
3. 常に幅広い知識を身につけ、魅力ある文化観光都市長浜の発展につくします。

近年の定年延長が影響し、入会希望者が少なく、如何にして集めるかがガイド協会共通の課題です。当協会も例外でなく、会員募集活動を積極的に取組むことが最優先課題の一つです。新入会員を集め、育てることは『暖簾を守る』に直結します。「守る」は消極的なように感じられますが、

令和2年度長浜観光V.Gの活動方針

地域に還元できるガイドへ研鑽を！

副理事長 木村富久子

長引く梅雨に、さわやかな夏空が待ち遠しく、毎日空とのにらめっこです。さて今年度の総会は、新型コロナウイルスの影響をやむを得ず委任状提出、表決議決としました。

今年度の活動方針を私なりに要約しますと、長浜に来られる観光客に、長浜の歴史や、曳山祭り、素晴らしい自然等を案内し、満足して帰って頂けるようスキルアップを図ります。そのためにも、ガイド能力の向上、ガイ

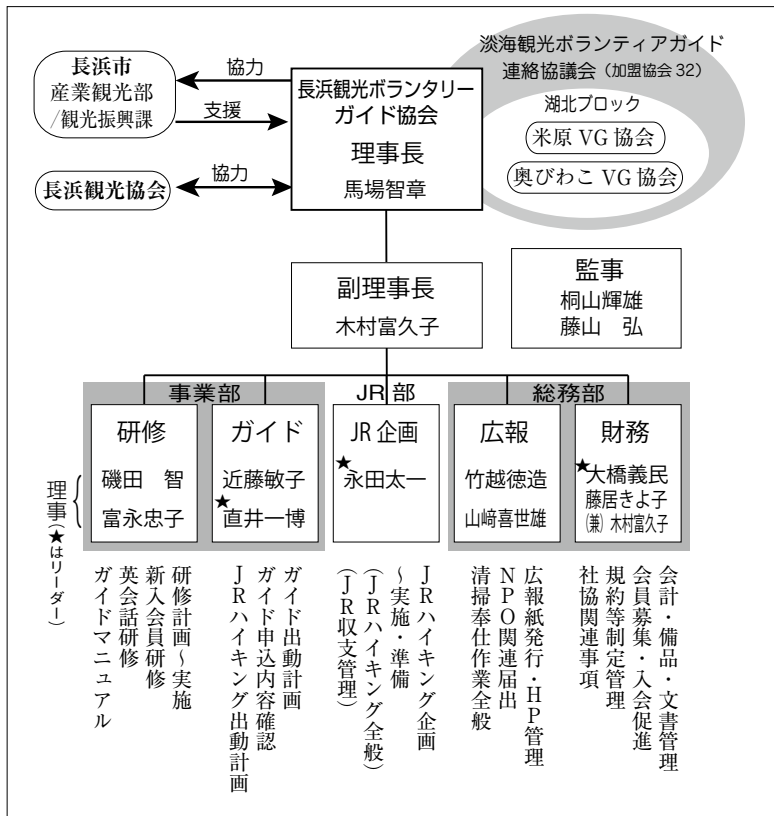
時が進むことで世の中のいろんなことが変化します。その変化に遅れないように積極的な攻めが、見方を変えれば守りです。史実に對する学説も新たな研究によって変わります。私たちは常に周囲の変化を察知し研鑽を積むことが、お客様の評価に結びつき、活動の場が拡がり『暖簾を守る』ことが出来ます。

今、私たちにはコロナウイルスという経験したことのない問題が。突如襲い掛かってきました。昨年末から始まったLIMONガイドも再開は当面難しい状況にあります。一般ガイドも昨年並みに戻るには時間を要するでしょうが、いずれ内外からの観光客は戻って来ます。その日を信じて邁進しましょう。

ド資料の見直し、ガイドマニュアルの確認を徹底し、よりよいガイドを目指します。

また、出動計画は、工夫と改善を重ね、会員が納得し楽しいガイド活動が出来るよう努力します。

研修活動の方針は、JRハイキングを利用した研修や曳山博物館、長浜城の企画等に関連した研修を実現します。そして、理事長が重点課題としてあげている新人研修、LIMONガイドに備え英会話研修を充実させます。



令和 2 年度長浜観光ボランティアガイド協会組織図

財務については、日常の出納業務に加えて、マニュアル整備、新入会員獲得を課題とします。

最後に広報活動は、広報紙「鯡の湖」の定期発行、「鯡の湖通信」の適宜発行、さらにホームページの運営・更新(会員掲示板には連絡事項欄あり)に力を入れます。またすでに実績のある、清掃活動対応業務(琵琶湖清掃、大通寺・四居家清掃)を継続し、さらに多くの会員の参加を促したいと思えます。「鯡の湖会」の思いを胸に、会員間の親睦を

深め、充実したガイド協会にしましょう。そして、少しでも地域に還元出来るよう日々研鑽を積みたいと思えます。みなさんのご協力をお願いいたします。

■新理事の抱負ひとつ

ガイド担当 直井一博

思いもかけないことに、理事を拝命しました。ガイドを担当させていただきます。「長浜のファンを増やす」ことを目標に、楽しく、和やかに活動できる地盤を作ることを目指したいと考えております。

「楽しく」は誰もが望むところですが、「和やかに」は、他の人たちと共にという意味を含んでいます。「思い」はそれぞれであっても、目標に対しては一致して協力できる組織になりたい。ガイド担当がその一助になればと思います。

研修担当 富永忠子

今更ながら「本当に私でいいの?」という気持ちで一杯です。今まで楽しくガイドをさせていただいていたのは組織の運営に携わってくださっ

た先輩の方々のお蔭とあらためて思います。皆様にはご指導、よろしくお願いいたします。コロナ問題の今ですが、やがてガイドできる日に備え「積ん読本」の整理や会員の皆様との交流などから、モチベーションを維持したいと思います。

広報担当 山崎喜世雄

はからずも伝統ある協会の理事の任を承ることになりました。広報を担当させていただきます。みなさまのご協力をお願いします。

当協会は、公共団体でもなくまた株式会社でもありません。会員相互の互助と協働があつて成り立つ組織ですので、「情報の共有」が私に課せられた課題だと思えます。その目標をめざし「鯡の湖」「鯡の湖通信」等の充実に努めます。

研修担当 磯田 智

この度強い要請もあり四度目の理事役を拝命致しました。研修関係を担当いたします。コロナ問題で非常事態も発せられ、解除されたとはいえ、第二・三波への対策のため従前とは異なる「新ガイド様式」への転換が必要とされるでしょう。我々のVG活動は長浜にお越し頂いたお客様に満足感ある観光をして頂くため、『おもてなし』の心で接することです。このために必要な研修を

皆様のご要望も取入れながら実施していきたいと思えます。皆様のご協力・ご支援をよろしく願ひします。

財務担当 大橋義民

コロナ禍は人の動きをとめた。命を守って早く終息を迎えるために人の多くが辛抱強く自粛したが観光市街地帯から人の波が消えてしまった。例年は多くの人で賑わう黒壁スクエア、花見時の長浜城は閑散とし、曳山祭りの延期等、今まで当たり前と思ってきたことが生きたための最高のプレゼントであったことに感謝し、「和を以て貴しとなす」を基本に進んでいきたい。

■新監事のプロフィール

巡り会いを大切に

桐山輝雄

一生の間で出会える方々、特に私にとって人生の先達、指導力のある方々との巡り会いに大変恵まれました。特に印象に残る方々を挙げれば、高校時代の恩師江童喜之氏、郷土歴史家中村林一氏、そして我がガイド協会の川村明氏、中島孝治氏、村上宣雄氏、さらに行政関係の大先輩三山元暁氏、吉田一郎氏、さらに人生の指南役中川一夫氏であります。いま、長浜は、まちづくり、ものづくりに邁進し、他の市町との都市間競争に及んでおり

ますが、やはり先達となる方々との巡り会いは、私にとって人生の宝物であり、今後もその導きを大切に守り、継承していきたいと存じます。

ボランティアへかける思い

藤山 弘

私、令和二年未曾有の新型コロナ感染症年、ガイド協会の監事に選任されました。よろしくお願いいたします。

昭和十七年二月長浜市榎木町生まれ。長農高卒業後県職員（技術系）勤務、平成十四年三月定年退職。予てからの思い「地域でボランティア活動」。長浜観光V.Gに平成十八年九月入会、現在に至る。

■新入会員紹介

長浜の歴史や文化を楽しめるガイドに

西川絹子

京都に行くと、海外からの旅行客の方にボランティアガイドをされている方を見かけることがたまにあり、自分もそのような活動に関わってみたいなど思っていました。その後湖北にも同じような活動があることを知り、入会を希望しました。長浜の歴史や文化をお客様とともに楽しめるようなガイドができるよう研鑽を積んでいきたいと思ひます。よろしく願ひします。

理解・協力・推進の J.R.ハイキングを

永田太一

本年度も、伝統ある当協会の運営に関わらせていただきありがとうございます。力不足な面がありますが、よろしく願ひします。いま、ガイド活動は、コロナ等で前途多難なスタートとなっています。

そして私は、入会からJ.R.ハイキングに関わり、その魅力にふれ、意欲的に活動できる場として考えてきました。

しかし、J.R.ハイキングが、今の社会状況とともに、協会（会員）自体の困難な問題に直面しているように、私としては、思っています。これから、どう展開していくか、前途多難で悩みはつきません。

自主ガイド、新規事業の中心として立ち上げられたJ.R.ハイキング。楽しく、みんなが意欲的に活動できるように様々な工夫と努力が必要です。

当協会の全活動にもいえますが、二年間を振り返り、特にJ.R.ハイキングには、活動に対する理解（賛同と支援）・協力が必要で、引き続き、会員が意欲的に活動推進できる場にしたいと考えています。皆さんのJ.R.ハイキング活動への積極的な参加を願ひします。



知善院観音堂前の草野佳代さん (写真・沓水達雄)



秀吉信仰の寺
知善院

草野佳代

湖北長浜にも数多くの素晴らしい観光スポットがある。地元V.Gとしてはそのどれもが自信と誇りをもって紹介したい名所ばかりである。なかでも知善院は秀吉信仰の寺として長浜町人の心を一身に受けてきた寺院である。今では一見粗樸そぼくで何となく寂しい感じを受けるが、実はなかなか奥深い。

本堂の厨子の中に祀られている木像の秀吉坐像。これは秀吉亡きあと大坂城の天守に安置されていたものであるが、落城の折、侍女が長浜に持ち帰ったものとされている。この侍女とは長浜町年寄、吉川三左衛門の娘であり、当時三左衛門は知善院の大檀那でもあったことから、その縁で知善院に寄進したという。また木像十一面観音坐像が祀られている観音堂は、長浜町人によって地子ちし報恩講が結ばれ建てられたものである。地子とは秀吉の朱印状によって長浜の町に与えられた三百石年貢(地子)のことである。この朱印状は元々秀吉が城下町に民衆を呼び寄せるための政策の一つとして出されたものであったが、その後豊臣から徳川へと政権が代わっても尚この朱印状は長浜町人の特権として保証されてきたという。

これによって、その後の長浜町発展の基礎が築かれてきたのは確かであろう。今日でも浜縮緬、曳山、黒壁等々さまざまなものから当時の町の経済力、町衆の心意気を感じとれる。まさに「秀吉さんのおかげです」といえると思う。知善院の歴史から、その裏にあるストーリーが見えてくるのがおもしろい。

知善院 山号寶生山。天台眞盛宗。本山は大津市坂本の西教寺。本尊は阿弥陀如来(重要文化財) 木像十一面観音坐像。長浜市元浜町29・10。閉館中(六月十日現在)。

距離感の転機



長浜観光協会 居林 楓

仕事をやる上で、皆さんとの距離感をどうすればいいのかずっと悩んでいました。一人勤務になった二年前頃、もう少しだけ話した話し方してみようと決めたのが転機となり、今では、他愛もない話なんかもできる間柄になりました。そのなかで、失礼なことがあったら、お許しください。

業務をはじめ四居家のことなら何でも応えられるよう、家主になったつもりで務めてきました。皆さんのおかげで四居家勤務が楽しかったです。会う機会が減ってしまいました。が、これからもよろしく願います！

居林楓さんは、二〇一七年から長浜観光協会職員として湖北観光情報センター(四居家)に勤務。二〇二〇年四月より、協会事務局に転勤となった。豊富な観光情報とていねいな接客対応が持ち味。

長浜観光ボランティアガイド協会会報
「鯼の湖」第一四七号
令和二年七月一日発行
発行人・馬場智章／編集人・山崎喜世雄
発行所・NPO法人長浜観光ボランティアガイド協会
長浜市元浜町14・12 四居家内